

## 専門研修課程 I ケアマネジメント演習用事例シートNo.1

(科目名：状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例)

### 事例の概要

Aさんは、胃がんの術後にADLの低下から介護老人保健施設に入所してリハビリテーションを受けています。リハビリテーションは順調に進んでいるなか、Aさんは家で暮らしたいという意向があります。トイレまでの歩行能力の向上と、トイレでの排泄に関する動作が自立する事を目標にしていたのですが、ふらつきがあり見守りが必要な状態です。ズボンの上げ下げなどは完全にできる状態ではありませんが、リハビリテーションを続けることで現状を維持しています。また、食事を3食とって栄養状態を維持するという目標は施設内で達成・維持できています。今後は施設入所ではなく、本人が希望する在宅への可能性を検討しています。しかし、妻が介護に関しての不安が強く、在宅復帰への同意が得られていない状況です。

### インテーク場面

施設の相談員より、Aさんの在宅復帰に向けた相談がありました。入院前のように生活が難しい状況、リハビリテーションについては、現状維持であり、今後、飛躍的な機能向上は難しい状況との事でした。家族が介護不安を抱えているなかで、柔軟なサービスの提供ができるサービスが必要ではないかとの事で、施設へ訪問し本人、妻と面談にて相談する事にしました。

### 基本情報に関する項目

受付年月	令和5年7月10日
受付担当者	介護支援専門員
受付経路	介護老人保健施設の施設相談員
氏名・性別・年齢	Aさん 82歳 男性 長崎県〇〇市〇〇町
家族状況	妻(80歳)と2人暮らし 〇〇市出身。5人兄弟の1番目。
生活歴	実母を幼少期に亡くし、祖父母にかわいがられて育てられる。また、兄弟の長男という事もあり、下の子の面倒もよくみていた。公務員として市役所で定年まで働く。妻は同じ職場の同僚であったが結婚を機に専業主婦となっている。子供は3人恵まれる。それぞれ独立している。平成21年、高血圧、脳梗塞(右片麻痺残る)令和5年4月10日、胃がんにて内視鏡的粘膜下層剥離術を受ける。2週間の入院後、令和5年4月25日、B老人保健施設へ入所となり現在に至る。
生活状況	定年後は家で読書をして過ごし、妻と一緒にいる時間が多かった。長女は買い物などで外出した際に顔を出してくれる。兄弟からはたまに電話がある。

保険・他法情報	共済年金
現在利用しているサービス	介護老人保健施設入所中 在宅サービス検討中
障害高齢者の日常生活自立度	A2
認知症高齢者の日常生活自立度	I
主訴	本人：リハビリを頑張って自宅に戻り、自宅で本を読んでのんびり過ごしたい。これまで通りにはできないだろうけど、できれば植木の世話がまたできるようになりたい。 長男、長女：母に負担がかからないようにトイレや寝起きくらいは自分でできるようになってほしい、無理なら有料老人ホームなどの入所を希望。 妻：できれば帰ってきてほしいが・・・介護できるかととても不安。
認定情報	要介護2（令和5年4月17日～令和6年4月30日）
課題分析理由	退所後の在宅生活を検討するため。

#### アセスメントに関する項目

健康状態	4月の入院で2週間の絶食とベッド臥床が長くなり、体力が落ちたが、現在は少し体重も増えた。(170cm 50kg→54kg) 胃がんの術後にて定期的な通院、検査があるが現在は体調不良や再発なく過ごせている。脳梗塞後遺症として軽度の右片麻痺ある。入院前は定期薬を飲んだり飲まなかったりしていたため、入院時から現在まで看護職員が管理し、食事ごとに手渡しし、飲んだか確認している。
本人のADL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝返り：ベッド柵につかまりゆっくり自分でできる。</li> <li>・起き上がり：ベッド柵につかまりゆっくり自分でできるが人がいれば介助を求める</li> <li>・移乗：見守り程度で自立。</li> <li>・立位：つかまりできる。</li> <li>・歩行：施設内は杖使用し、室内は手すりにて歩行。歩行時ふらつきあり。</li> <li>・更衣：ボタンかけ、乱れを整えるなどの介助受けている。</li> <li>・入浴：浴室内部での移動、浴槽出入りを一部介助。</li> <li>・洗身：背中洗身、洗髪を介助。</li> <li>・食事：利き手は右。右手にてスプーン、フォークを使用して自立。</li> <li>・整容：濡れタオルを渡せば自分で拭く。爪切りは全介助。</li> </ul>
本人のIADL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理：施設で作られている。退院後は妻が行う予定。</li> <li>・掃除：施設職員が行う。ベッド周りの整頓程度は声掛けでできる。</li> <li>・買い物：妻や娘が行う。</li> <li>・金銭管理：妻が行っている。</li> <li>・服薬状況：看護職員が管理し、食事ごとに手渡しし、飲んだか確認している。</li> </ul>
認知	声掛けし、手順を伝えないと自発的にしないことが多くなってきた。 日にちや曜日を間違える時がある。
コミュニケーション	特に問題なし

ヨン	
社会との関わり	入所中に弟が一度訪ねてきた事があるが普段はあまり交流ない。
排尿・排便	尿意、便意あり。施設ではリハビリパンツを使用している。 ズボンの上げ下ろしがうまくできず間に合わない事が多い。深夜は決まって2時前後に覚醒され職員を呼び付き添いにてトイレに行かれる。 便秘傾向となり、4日便が出ないと座薬を挿入している。本人は座薬が嫌と言われ不機嫌になることがある。
じょくそう・皮膚の問題	なし。
口腔衛生	道具を手渡せば、自分で部分義歯を外し、簡単にみがいてうがいする。口臭がある。
食事摂取	左手で食器を押さえ、右手でスプーンやフォークを何とか使用して食べる。 右手の握力が低いため、箸はうまく使えない。 ご飯はやわらかめ、おかずは普通食、全量摂取ではないが、栄養的には必要量食べている。 夜間のトイレを気にされ、食事の際のお茶しか飲まない日が増えた。
周辺症状	特になし。
介護力	妻は要支援2の認定を受けている。うつ病にて内服治療中。気分が落ち込むと家事など意欲が低下する。妻の介護保険で掃除の支援を受けている。 子供たちは時間が取れば協力するという。現在は主に長女が買い物を支援している。長男と長女は実家から車で40分位のところに住んでおり、次男は県外。
居住環境	自宅は数年前にリフォームし、室内は段差がない状況にしている。玄関は段差あり。 寝室はトイレから少し遠い。廊下やトイレには手すりはない。
特別な状況	なし
家屋図	住宅の見取り図 

